

2008年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度で見ると、極渦はシベリア上空に位置し、その南では寒帯前線ジェットが帯状に明瞭だった。このため、中緯度帯への寒気の南下が少なく、ユーラシア大陸の中緯度帯では高温偏差が広く分布した。日本付近の偏西風は平年より弱く、北日本を中心に高周波擾乱の活動が平年よりも不活発だった。海面気圧で見ると、北太平洋高気圧は平年より強く、アリューシャン低気圧はほとんど発達しなかった。帯状平均東西風で見ると、北半球の亜熱帯ジェットは先月に続き南側で平年よりも弱く、これはラニーニャ現象時に見られる特徴と一致している。

熱帯域の対流活動は、ベンガル湾からインドネシア付近で活発で、28日にはサイクロン Nargis がベンガル湾で発生（インド気象局による）、東進した。また、南シナ海で15日に台風第1号が発生した。一方、西部および中部太平洋赤道域では対流活動が不活発だった。赤道季節内振動（MJO）の対流活発な位相は上旬に大西洋からアフリカを東進したが、その後は位相の東進が不明瞭になった。対流活動の分布に対応して、東南アジア域における対流圏上層の高気圧性循環は平年よりも強かった。対流圏下層では、中・西部太平洋赤道域の東風偏差が持続したが、東部では明瞭な

西風偏差となった。

南方振動指数（SOI）は+0.6となった。

世界の天候

2008年4月の世界の月平均地上気温年差は、+0.15°Cであった。4月の世界の月平均地上気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は0.70°C/100年である。

○北日本から中国東部では、高気圧の西側となって暖かい南風が入ることが多く、前月に続いて異常高温となった。

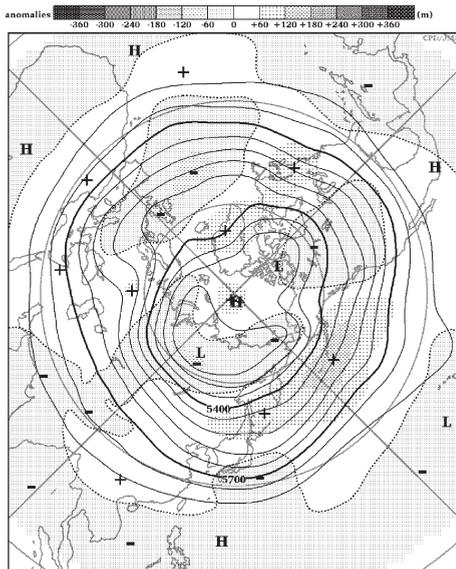
○ヨーロッパ東部から南西部では、低気圧の影響を受けることが多く、異常多雨となった。

○ヨーロッパの低気圧に向かって南から暖気が入ることが多く、中東からアフリカ北部の広い範囲で異常高温となった。

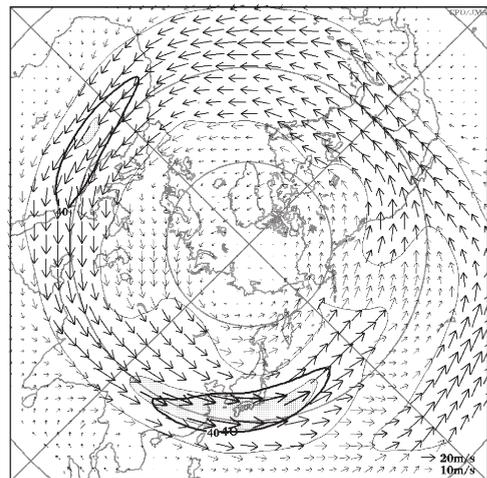
（気象庁地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

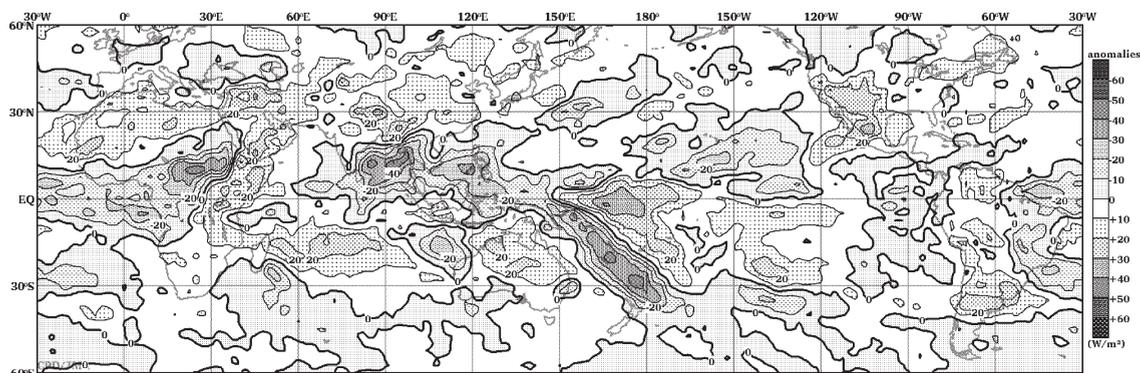


2008年4月の北半球月平均500 hPa 高度および年偏差等値線間隔は60 m。陰影は年偏差。年偏差は1979～2004年のデータから作成。

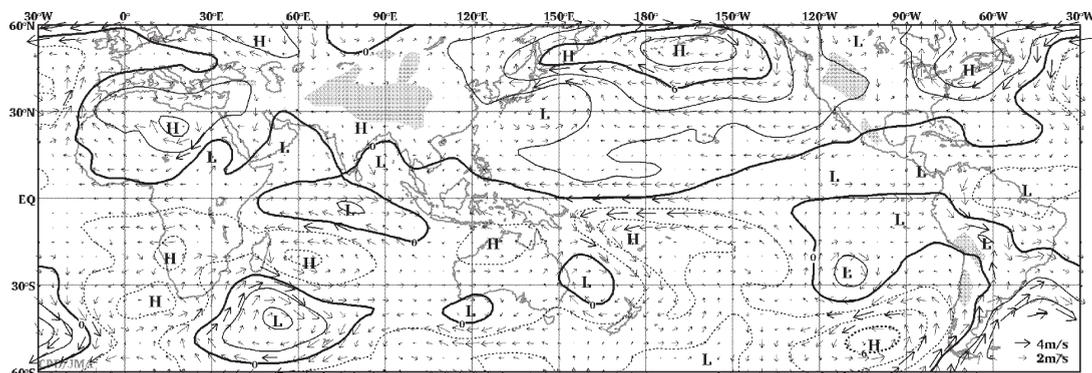


2008年4月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

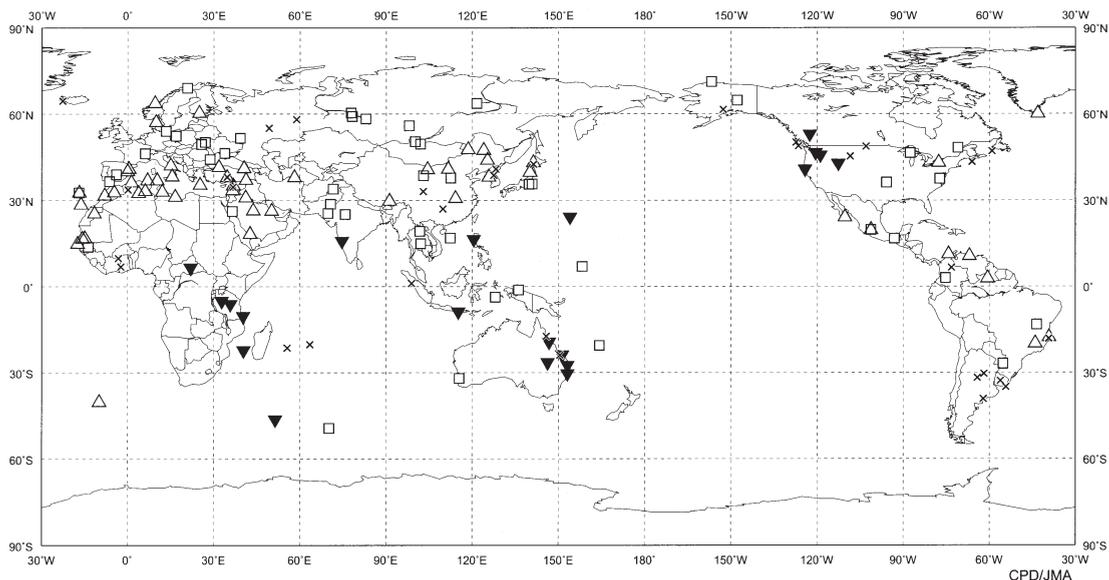
等値線間隔は20 m/s。陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は年偏差の40 m/s以上の領域を示す。年偏差は1979～2004年のデータから作成。



2008年4月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年4月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。